

垂井町総合計画審議会 第1回会議（要旨）

- ・ 第5次総合計画と第6次総合計画の違いは、まちづくり基本条例を制定したことだ。
- ・ 少子高齢化や人口減少が叫ばれている。
- ・ 第5次総合計画と第6次総合計画時点で住民の意識が変わっているのか、その比較がほしい。
- ・ 方向性として、人口減少を受け入れるのか、人口減少に挑むのかを選択する必要がある。
- ・ 人口減少を受け入れるのであれば、高齢者にとって過ごしやすい環境づくりや防犯に力を入れないといけない。
- ・ 人口減少に挑むのであれば、町の魅力発信や公園整備などを進めなければならない。
- ・ 人口ビジョン 21,000人を少しでも増やせるよう議論したい。
- ・ 人口を増やしていきたいのであれば、10代から30代までの子育て世代の意見が重要である。
- ・ 年代が上がれば情報収集をする媒体は、SNSやインターネットでなく、会報など紙が中心となるため、情報発信方法を考えていくことが重要である。
- ・ 高齢世代としては、将来のために何をこれからの世代に残していかなければならないか考える責任がある。
- ・ 行政の関心は、高齢者ほど関心が高いが、若い世代ほど関心が低い。策定過程で若い世代に関心をもってもらうよう考える必要がある。
- ・ 高齢者の意見も重要であるが、これからの町を背負う若い世代の意見に注目していきたい。
- ・ 若い世代の同世代で集まれるようなワークショップを検討してはどうか。
- ・ 防災は、減災の視点も重要であり、林業・農業などへの対策を併せて考えていく必要がある。
- ・ 様々な施策について、縦割りではなく、分野横断的に検討する必要がある。
- ・ 若い世代から商業施設や娯楽がないという意見がある反面、娯楽が増えると環境が破壊され、都会へのあこがれと自然豊かが良いとは相反するものである。
- ・ 住宅を購入した若い世代の意見を聞くと、子どもが小さな頃は自然が豊かな所、子どもが大きくなると都会へのアクセスが良い所が人気である。
- ・ 新築住宅が建つ所は、土地の値段が手頃で、都会に近い所であり、そういった所は子どもが増えている。
- ・ 大垣市には商業施設があるので、公共交通等利便性を確保すれば、垂井町の自然はそのままに人口流入を見込めるのではないか。

- 町内でも、過疎化している所と新築住宅が増えている所があり、二極化されている。
- 空家や高齢者のみ世帯がますます増えていくため、空家等の利用促進が町の活性化につながるのではないか。
- 耕作放棄地を興味がある人に貸して、若い世代に遊ぶ場所だけでなく、作る場所、働く場所として提案していきたい。
- 高齢者を始め車を利用しない者の交通手段の確保が課題である。
- 垂井町在住者の日常生活圏は、必ずしも町内だけでないという視点を持ち、町外へ出て行く者や町外から訪れる者にいい町と感じてもらえることを考えないといけない。
- 県内や愛知県に目が向きがちだが、滋賀県は町から近いうえに大学数も多く、大垣方面よりもアクセスが良いため、滋賀県との連携を視野に入れてはどうか。
- 町外者から見ると、垂井町は交通アクセスが良い場所である。
- 将来を考えたときに、子育て支援など 21,000 人に上乗せできるような姿勢で臨まないといけない。